

坂城町埋蔵文化財調査報告書第10集

坂城町試掘調査・ 立会い調査報告書

長野県埴科郡坂城町平成7年度発掘調査報告書

1996

坂城町教育委員会

坂城町試掘調査・ 立会い調査報告書

長野県埴科郡坂城町平成7年度発掘調査報告書

1996

坂城町教育委員会

坂城町試掘調査・立会い調査報告書 CONTENTS

目次・例言 試掘・立会い調査位置図 1

第I章 試掘調査

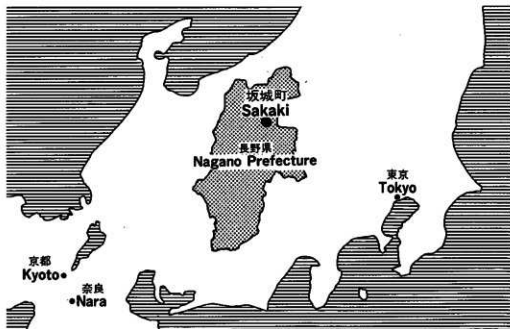
- 1 宮上遺跡Ⅲ— 2 2 東裏遺跡Ⅲ— 4
3 東裏遺跡Ⅳ・青木下遺跡Ⅱ— 5

第II章 立会い調査

- 1 上五明条里水田址 5 ————— 8
2 上五明条里水田址 6 ————— 9
3 日名沢遺跡 1 ————— 10
4 日名沢遺跡群 1・2・3・4 ————— 10
5 込山E遺跡 1・2 ————— 12
6 田町遺跡群 2 ————— 13

— 例 言 —

- 本書は、長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成7年度に実施した町内遺跡の試掘調査・立会い調査報告書である。
- 事務局の構成
教 育 長 西沢茂雄
社会教育課長 塩野入雄
文化財係長 小宮山久寿
文化財係 助川朋広 小平光一
青木卓(嘱託職員)
潮在孝子(臨時職員)
- 調査の体制
調査指導者 森嶋悠(日本考古学協会会員・長野県考古学会会長・千曲川水系古代文化研究所主幹)
調査担当者 助川朋広 小平光一(坂城町教育委員会学芸員)
協力者 天田澄子 小宮山愛子 塩野入早苗
春原かずい 高木和子 中村久子
荻野れい子 宮尾美代子(以上 臨時職員)
窪田盛次 諏訪孝男
(以上 埴科地域シルバー人材センター)
- 本の執筆・編集は助川・小平が行った。
- 本書掲載の関係資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。



長野県埴科郡坂城町位置図

試掘・立会い調査位置図



第1章 試掘調査

1 宮上遺跡川

所在地 大字中之条926
 事業主体 坂城町教育委員会
 事業名 坂城中学校改築事業
 調査期間 平成7年6月12日～16日
 面積 約550m²
 担当者 助川朋広



位置図

遺跡の環境と経過

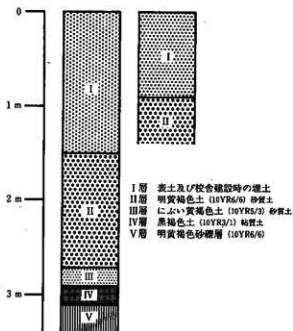
宮上遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高421m内外を測る。御堂川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の遺跡に位置づけられ、先に実地した同敷地内から、古墳時代～平安時代の集落址である事が判明している。

今回、坂城中学校体育館建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、遺跡の状況を確認する目的により試掘調査を実地した。

調査結果

調査対象地が中学校の建設時に削平・盛土となっているため、東西方向にトレンチを設定し、合計5本の試掘トレンチにて遺構の状況を確認した。削平を受けていた4号トレンチから古墳時代と思われる竪穴住居址1棟が検

出された。御堂川の氾濫によって、流路を変えたものと思われる河川址に、切られているようである。他のトレンチからは、当初の子想どおり古墳時代～平安時代と思われる竪穴住居址が合計



基本土層模式図

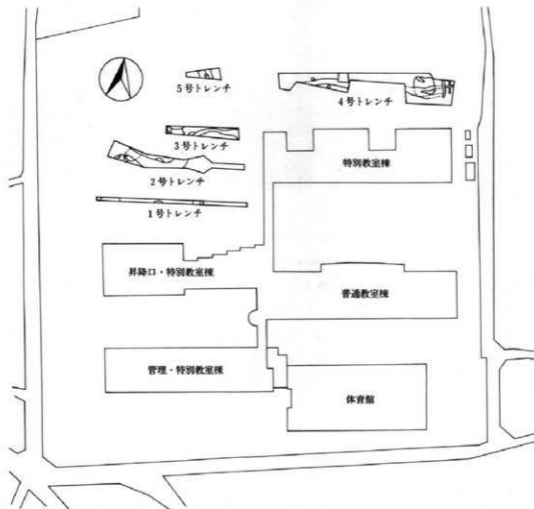
6棟検出された。今回の試掘調査によって、記録保存を前提とした発掘調査を行うこととなった。



調査前近景図（西より）



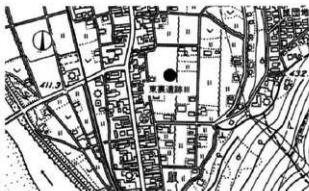
トレンチ調査状況（南東より）



試掘トレンチ設定図（1：1250）

2 東裏遺跡III

所在地 大字南条字東裏660-1 661-2
事業主体 坂城町総務課
事業名 消防コミュニティセンター
建設事業
調査期間 平成7年12月14日
面積 215㎡
担当者 小平光一



位置図

遺跡の環境と経過

東裏遺跡IIIは、坂城町南条に所在し、標高411m内外を測る。千曲川によって形成された沖積地の自然堤防上に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、調査対象地西側で行われた東裏遺跡(昭和58年度調査)で、手捏土器・石製模造品等が出土し、古墳時代の祭祀的色彩が濃い遺跡と考えられている。また、調査対象地



トレンチ検出状況(東より)

北側で行われた東裏遺跡II・青木下遺跡(平成4・5年度調査)では、古墳時代後期～平安時代の竪穴住居址29棟等が確認され、中でも古墳時代後期の玉造り工房址3棟が検出されたことから、当該地も同様に祭祀色濃い集落址が存在することも予想された。今回、坂城町総務課による消防コ

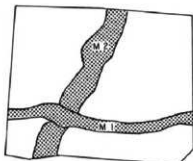
ミュニティーセンター建設が計画されたため、試掘調査を実施し、遺構の存在を確認することとなった。

調査結果

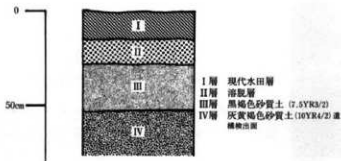
調査対象地が215㎡とわずかなため対象全域表土を剥ぎ、遺構の状況を確認した。

その結果、溝状遺構が2条検出された。仁和4(888)年の洪水と思

汎 掘 通



トレンチ設定図(1:250)



基本土層模式図

われる千曲川氾濫砂層被覆後に構築されていることから、時期は平安時代～中世に所属するものと思われ、切り合い関係から2時期に分かれるものと思われる。

また下層に古墳～平安時代の集落址が存在する可能性もあり、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなった。

3 東裏遺跡IV・青木下遺跡II

所在地 大字南条字青木下637-7 637-10 638 639-1 640 641 642他

事業主体 株式会社いせや

事業名 店舗建設

調査期間 平成7年12月14日～20日

面積 1017㎡

担当者 小平光一



位置図

遺跡の環境と経過

東裏遺跡IV・青木下遺跡IIは坂城町

南条に所在し、標高411m内外を測る。千曲川によって形成された沖積地の自然堤防と後背湿地に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、遺跡内では東裏遺跡(昭和58年度)・東裏遺跡II・青木下遺跡(平成4・5年度)・東裏遺跡III(平成7年度)の調査で、縄文時代中期～晩期、古墳時代後期～平安時代の遺跡であることが判明している。東裏遺跡IIの調査結果では、古墳時代後期に位置づけられる白玉の製作された玉造り工房址3棟を検出し、東裏遺跡では手捏土器、滑石製の剣形模造品、白玉等の祭祀遺物が出土している。また青木下遺跡では仁和4(888)年に起きたとされる洪水砂層に被覆された水田層が確認された。



調査前近景図(南西より)



8号トレンチ調査状況(西より)



1号トレンチ遺物出土状況(西より)

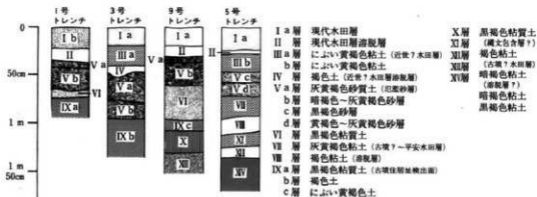
以上の事から、同遺跡は縄文時代中期～晩期の遺物包含層の存在、古墳時代後期の祭祀に係わる遺構・集落址・水田址が展開することが予想されていた。今回株式会社いせやによる店舗建設が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたことから、遺跡の状況を確認するため、試掘調査を実施した。

調査結果

調査対象地に11本のトレンチを入れ、遺構の存在を確認した結果、調査区西側に古墳時代後期と思われる集落址、東側に水田址が展開することが確認された。

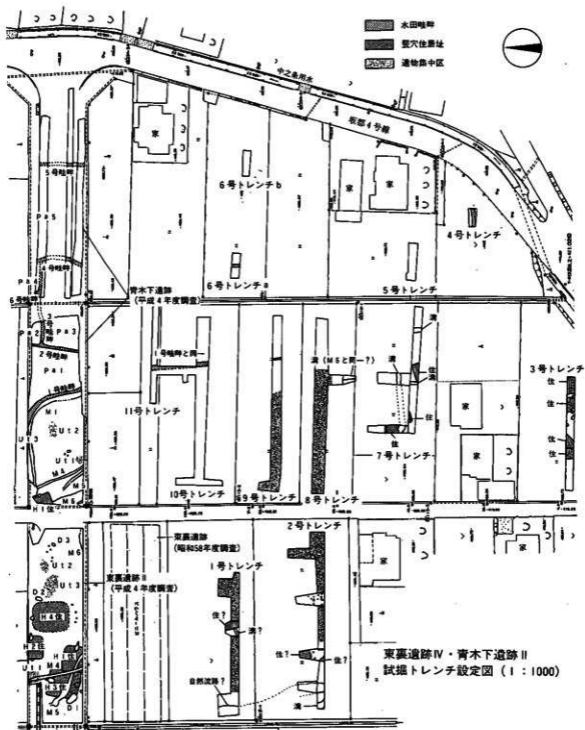
土層是水田域と集落域では様相が異なる。1～3・7～11号トレンチでは構造改善事業の影響で上層は破壊されているが、断片的に近世(あるいは中世)水田層が断面観察されるが、面として

とらえられない。Va～d層は仁和の洪水と思われる砂層で、4～6、7～11号トレンチに被覆された平安水田層が確認された。Vb層は古墳時代後期の確認面である。Vb層とVI層の間に多量の土器が出土した。坏類は完形品も多いようであるが、はじめから意図的に破棄したようにも見てとれる。遺物の集中は1・2・8・9号トレンチに集中し、遺物は土師器・須恵器・白玉等が出土している。竪穴住居址は1・2・3・7号トレンチで検出されている。IXa層が住居址検出面となるが、遺物集中区VI層から掘り込まれている可能性が高いが、類似土層の堆積となり判然としにくい。またX層で縄文土器片が出土したことから、X層が縄文時代遺物包含層になると思



基本層序模式図

われる。以上の結果、店舗基礎部分約5,000㎡は発掘調査を実施し、駐車場の部分に関しては埋土保存することとなった。



第二章 立会い調査

1 上五明条里水田址 5

所在地 大字網掛141-2 他
 事業主体 坂城町農林課
 事業名 県単中山間地域活性化基盤整備事業
 調査期間 平成7年11月21日
 面積 181㎡
 担当者 小平光一



位置図

遺跡の環境と経過

上五明条里水田址5は坂城町上五明に所在し、標高398m前後を測る。千曲川によって形成された沖積地に位置する。分布地図によると平安～近世の水田址に位置づけられ、遺跡内の発掘調査では奈良時代と思われる水田層も確認されている。

今回、坂城町農林課が行う県単中山間地域活性化基盤整備事業が計画されたことから、農道舗装に伴い、立会い調査を実施することとなった。



基本土層模式図



遺跡近景 (東より)

調査結果

工事掘削後に立会い調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。一カ所深掘りを行ったが、水田址は検出されなかった。河原石を多量に含むことから福沢川あるいは千曲川の河川の一部であった可能性が考えられる。

2 上五明条里水田址 6

所在地 大字網掛184 他
 事業主体 坂城町農林課
 事業名 農林業同和対策事業
 調査期間 平成8年2月1日
 面積 935㎡
 担当者 小平光一



位置図

遺跡の環境と経過

上五明条里水田址 6は坂城町上五明

に所在し、標高401m内外を測る。千曲川によって形成された沖積地に位置する。分布地図によると平安～近世の遺跡に位置づけられる。字名大御門(御門屋)は、中世村上御厨の庶務を司る神明宮に関係する地名と考えられ、神官が駐在した旅屋場(御旅所)の地名も隣接することから、中世の遺跡が存在することも予想される。

今回、坂城町農林課による農林業同和対策事業が計画されたことから、農道舗装に伴い立会い調査を実施することとなった。



遺跡近景 (西より)

調査結果

現水田面からは深さ50cm程の掘削となった。III層盛土の中から、内耳土器片が2点出土した。VI層は水田層で、土師器甕片が1点出土している。しかしながら、水田面確認レベルが高く、古代に位置づけられないと思われる。古代水田址は、今回の調査では検出面まで達しなかったものと思われる。



基本層序 (南より)

3 日名沢遺跡 1

所在地 大字坂城字日名沢
事業主体 坂城町都市開発課
事業名 下水道整備事業
調査期間 平成8年1月31日
面積 約10m²
担当者 小平光一



位置図

遺跡の環境と経過

日名沢遺跡は坂城町坂城に所在し、

標高420m内外を測る。日名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。分布地図によると弥生～平安時代の遺跡に位置づけられ、中世には村上氏居館跡が築かれる等重要な遺跡である。

遺跡近景
(北より)



今回、坂城町都市開発課による下水道整備事業が計画され、マンホール掘削に伴い、立会い調査を実施することとなった。

調査結果

上層は道路、水道管等の建設時に削平され、盛土されていた。現道下約50cm程で地山が検出できる

が、今回の調査では面積も狭いこともあり、遺構・遺物は検出されず、遺跡の性格は不明である。

4 日名沢遺跡群 1・2・3・4

所在地 大字坂城字栗田・新町 他
事業主体 坂城町都市開発課
調査期間 平成8年1月31日・2月7日・3月19日・3月26日
面積 約40m²
担当者 小平光一



位置図

遺跡の環境と経過

日名沢遺跡群は、坂城町坂城に所在し、標高400～423m内外を測る。宮沢川、日名沢川によって形成された複合扇状地の扇端部にあたる。分布地区によると弥生～平安時代に位置づけられ、遺跡内には式内社坂城神社、中世の村上氏居館跡が所在し、近世には北国街道の街道筋となる等弥生～近世に至る複合遺跡であることが予想される。

今回、坂城町都市開発課による下水道整備事業が計画され、立会い調査を実施することとなった。

調査結果

4カ所とも上層は道路、水道管等の建設時に削平・盛土されている。調査は4カ所の地点で実施することとなり、地表下約50cm程で地山となる。今回の調査地点からは面積も狭いこともあり、遺構・遺物は検出されず、遺跡の性格は不明である。

しかしながら、近接する村上氏居館跡の調査(平成7年度)では縄文～中世の遺構・遺物の検出があり、同様な遺跡のあり方が予想されるため留意する必要がある。



日名沢遺跡群1 遺跡近景 (西より)



日名沢遺跡群2 遺跡近景 (南より)



日名沢遺跡群3 遺跡近景 (東より)



日名沢遺跡群4 遺跡近景 (南より)

5 込山E遺跡1・2

所在地 大字坂城字立町
 事業主体 坂城町都市開発課
 事業名 下水道整備事業
 調査期間 平成8年2月9日・17日
 面積 約20㎡
 担当者 小平 光一

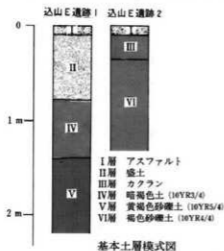


位置図

遺跡の環境と経過

込山E遺跡は、坂城町坂城に所在し、標高397～402m内外を測る。日名沢川によって形成された扇状地の扇端部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の集落址に位置づけられ、遺跡内から前期の住居址、縄文晩期の遮光器土偶が出土している。隣接する込山D遺跡では中世に所属するものと思われる掘立柱建物の柱穴が検出された。近世には北国街道の街道筋となり、坂木陣屋が置かれる等縄文～近世の複合遺跡が存在する重要な遺跡である。

今回、坂城町都市開発課による下水道整備事業が計画され、立会い調査を実施することとなった。



込山E遺跡1遺跡近景(西より)



込山E遺跡2遺跡近景(北より)

調査結果

2カ所とも道路・水道管等の建設時による削平、盛土され約50～80cm程で地山が検出できた。今回の調査では面積も狭いこともあり、遺構・遺物は確認されず、遺跡の性格は不明である。

6 田町遺跡群 2

所在地 大字坂城字田町6539-2他

事業主体 坂城町建設課

事業名 歴史の廻道建設事業

調査期間 平成8年3月4日

面積 約250㎡

担当者 小平 光一



位置図

遺跡の環境と経過

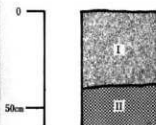
田町遺跡群2は坂城町坂城に所在し、

標高404m内外を測る。日名沢川、入田川によって形成された複合扇状地の扇端部にあたる。分布地図によると弥生～平安時代の集落址に位置づけられる。調査対象地には近世に建立された葛尾城主村上義清の供養塔と孫の幸豊の墓が所在し、傍らに旧臣出浦氏の墓が所在する。字名前田は在地領主の直営田に関係する地名であることから中世の遺跡が存在することも予想される。

今回、坂城町建設課による歴史の廻道建設事業が計画されたことから、立会い調査を実施することとなった。



遺跡近景（北より）



I層 カクラン
II層 褐色土 (10YR4/5)

位置図

調査結果

建設事業は地表下50cm程の掘削となったが、II層褐色土層が遺構検出面と把握できた。しかしながら、面積も狭いこともあり、遺構・遺物は確認されず、遺跡の性格は不明である。

坂城町埋蔵文化財発掘調査報告書

	【開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書】	1977
	【開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書】	1978
	【東裏遺跡】	1984
	【中之条遺跡群 宮上遺跡II】(概報)	1993
	【南条遺跡群 塚田遺跡】	1993
第1集	【南条遺跡群 東裏遺跡II・青木下遺跡】	1994
第2集	【町内遺跡発掘調査報告書】	1994
第3集	【町内遺跡発掘調査報告書】	1995
第4集	【南条遺跡群 塚田遺跡II】	1995
第5集	【豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡】	1996
第6集	【中之条遺跡群 寺浦遺跡II】	1996
第7集	【中之条遺跡群 上町遺跡II】	1996
第8集	【上五明条里水田址】	1996
第9集	【町内遺跡発掘調査報告書 1995】	1996
第10集	【坂城町試掘調査・立会い調査報告書】	1996

発行日 1996年3月29日

編纂者 坂城町教育委員会

発行者 坂城町教育委員会

〒389-06 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468番地 ☎0268-82-2069

印刷者 鬼灯書籍株式会社

〒381 長野県長野市柳原2133-5

☎026-244-0235

印刷仕様◇版型 B5版◇頁数 16頁◇版組 電子組版◇製版 モノクロ写真150線

◇用紙 表紙レザック180kg 本文コート紙90kg ◇製本 糸かがり

